

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500405		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ清田		
所在地	札幌市清田区清田1条4丁目2-6		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、古い樹木の残った公園に面し、四季の移り変わりを感じられる環境に建物がある。多種の医療機関や大型商業施設も周辺にはあり、利便性にも恵まれた立地条件にある。ホーム内は陽光の中でご本人の自立性を重視した生活を送って頂く為の工夫を凝らし、家庭的雰囲気や大事にした運営に努力している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190500405&amp;SCD=320">http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190500405&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年2月22日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中にある静かな環境で、ホームの窓からは公園の様子が何え、明るい日差しが入り込み、暖かな雰囲気を感じられます。職員の定着率も高く、人間関係も良好で、管理者や職員は利用者と同じ目線での会話を心がけています。利用者へ寄り添い、思いを大切にされたケアが実践されていることで、利用者との信頼関係を結び付けています。運営者は、医療・介護・教育の分野で全国規模の事業を展開しており、多様なバックアップ体制が整っています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らしていく為に、ホーム独自の理念を掲げサービスが実践できるように努めている。	ホーム独自の理念を各ユニットの玄関に掲示し、地域の中で安心した暮らしが保てるよう、職員は理念を日々のケアで実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し河川の清掃やダンボールの回収、区民センターで開催される夏祭りやコンサートに出来るだけ参加し地域の方々に交わる機会を作っているが日常的な交流までは至っていない。	町内会に加入し、職員は町内の清掃に率先して参加し、地域の催しには利用者同伴で参加しています。子供110番の指定を受け、地域の一員として交流しています。	ホームが、地域から孤立しないよう関わりを積極的にもつよう、町内会の行事以外にもホームからの呼びかけで、近隣住民の方々が気軽に立ち寄って頂けるような関係作りを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所や職員として、地域貢献できるまでに至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では運営上の報告やサービスの実際、又行事や食事会を通じて利用者の生活ぶりを見て頂きそこで出た意見や評価をサービスの質の向上に生かしている。	2ヵ月毎に運営推進会議を開催し、町内会役員、民生委員、地域包括センター、家族、利用者の参加で、ホームからの報告や参加者からの意見を頂いています。	地域密着型サービスの役割を果たすための取り組みとして、毎回同じメンバーにならないよう、運営推進会議の構成員の拡充を図り、双方向的な会議になるように見直すことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の事業所担当者や区の介護保険課とは報告や相談を通じてより良いサービスが出来るよう意見が聞ける関係作りが出来ている。	市や区の担当窓口へは、介護保険の相談や事故報告書の提出、各種の申請時に関係作りをしながら、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員は対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束に当たる行為は行っていない。	研修で身体拘束防止について説明がされています。職員全員が研修受講後に各自の考えを出し合い、身体拘束におけるリスクを話し合い、理解を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	札幌市の研修を初め社内外の研修に出来るだけ参加するようにしている。参加者は勉強会で伝達講習を行ない全体の意識を高める機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を用意して、相談があれば活用できるようにしている。職員には研修の機会があれば紹介し勉強の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は関連書類を読み上げ疑問や質問内容を解決しながら、納得の上契約が締結できるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者へのサービス内容やホーム運営についての意見や苦情などは家族会や家族の来訪時等に職員が把握するようにしている。意見や要望があれば、ホーム全体で考え改善するようにしている。	家族の訪問時や受診後の電話連絡で、家族の意見を引き出すようにしています。頂いた意見の中で、ホームで解決できない場合は、運営者に連絡し反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案提起は、会議やカフェの機会に準備する事もあるが、急ぎ解決したい内容は毎日の業務の中で話し合いの時間を作り解決するようにしている。	管理者や職員同士の意見は活発にできており、言いやすい環境にあります。会議でも意見を出し合い、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の業務の努力や実績は、自己評価を含めた評価制度があり、各自の意識を高め向上心ややりがいをもって働ける職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社では、職員が育つ事を奨励し、ステップアップできる為の制度を設けている。又、採用時研修やスタッフ研修の内部研修や資格者には実践者研修を受講する機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区には管理者連絡会があり、活発に活動している。そこを通じて勉強会や交流会が開かれ職員間の交流の機会ともなっている。だがGH同士の介護職員が交流する機会はまだまだ少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安な事、求めている事などをよく聞き受け止めて、信頼関係の基盤を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居までの間に、本人や家族に会い、ヒアリングやアンケートも使って出来るだけ多くの生活習慣や情報を得るようにしている。それを元に関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、可能な限りの他のサービス利用も含めた内容を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と共に、生活や人生の一部を共有していると考え、日々の生活の中敬意を払いながら接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される立場だけに置かず、共に利用者を支える役割を担える関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族、以前馴染みの会った方達との関係が途切れないように家族会や運営推進会議、誕生会等で定期的な交流の機会を作るようにしている。	入居前に住んでいた住居を見に行ったり、馴染みの喫茶店に行くなど、従前の関係継続のための支援をしています。利用者の友人が来訪することもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、状況によってはリビングの席替えをしたりと関わりが多くもてるよう関係作りを工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族からの相談や問い合わせには丁寧に応じ、関係性を大事にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。外出や趣味の希望、家族との関係を調整して望みが叶うように配慮している。	利用者に寄り添い日々のケアを通して、希望や思いを引き出しています。家族からの情報や昔話をしながら、利用者の望みを聞いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービスの利用状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、心身の状態、有する力などの現状を総合的に把握して日頃のケアに生かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	時には家族や関係者にも担当者会議に参加して頂き意向や役割の確認をし個別のプランを作成するようにしている。	介護計画は、3ヵ月毎に利用者や家族の意向を聞きながら、計画作成担当者と職員で相談し作成しています。退院後は1ヵ月で作り、徐々に3ヵ月の介護計画に変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の中から職員間で情報を共有して日々の生活を根拠にした介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば、職員が付き添い通院や買物に出かけている。又ボランティアの受け入れや地区センターの催しへ出かけるなどの支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の自立支援の為に、地域住民や消防との関わりは持っているが他機関との協働体制は充分ではない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、それぞれの利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診は、家族対応でお願いしていますが、家族の都合で行けない場合は、職員が同行しています。受診情報は家族とホームで共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は訪問看護師に相談し健康管理や医療的な指示をもらいながら、適切に早期対応が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は出来るだけ早く退院出来る様に、家族や医療機関と相談しながらスムーズな退院につながるように支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した際のホーム側の対応については、比較的早い段階でかかりつけ医の説明を受けて頂いている。その際は家族や本人と話し合い訪問看護師や医療機関と連携し処置を決めるようにしている。	重度化した場合の指針を作り、同意書を取り交わしています。ホームとして、できる事、できない事を明確にして、重度化になった場合、希望する方法で終末期をむかえられるように取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を全職員が受けている他、勉強会を設けて初期対応の訓練としている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署による年2回の総合訓練には夜間を想定した訓練も実施している。又、非常食や緊急時の備品も準備している。運営推進会議では消防署員や近隣の方に協力を要請している。	スプリンクラーの設置も完了し、年2回の避難訓練では夜間の火災も想定しています。職員も全員が救命救急の講習を受講済みです。	夜間帯は職員が少なく、地域住民の方々の協力が不可欠であるため、毎回の災害訓練には、あらゆる避難策を検討し、住民の方々の具体的な協力が得られるよう、検討し実施することを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声かけや対応法は社内研修や勉強会を通じて職員の意識の向上を図っており誇りやプライバシーを損ねないように適切な対応を心がけている。	利用者に寄り添い、同じ目線で話しかけるなど、適切な対応を心掛けています。	利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう、利用者への言葉かけについても日々確認しあいながら、取り組むことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれが自分の希望や思いを表出できるように働きかけ、出来るだけ自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれが自分の家と思ひ、できる力を十分に生かして生活が出来る様に出来るだけ個々のペースに合わせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容が訪れ身だしなみを整えている。又、季節代わりの衣類は家族の協力を得て購入を依頼している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の嗜好や希望、季節感や行事にあわせたメニューで食事を楽しめるようにしている。利用者のできる力を生かし準備にも参加出来るようにしている	利用者の誕生日や行事では好みの献立にしたり、外食も利用しています。献立は、利用者の嗜好に合わせて提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の確保は栄養のバランスを考慮したものを各自の状態や力に応じた形態や量を個別に変え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔状態を把握し本人の力に応じた口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの心身の状態に応じた方法で排泄の自立を支援している。職員が連携して自立支援が行なえるようケアプランに載せ実践している。	排泄チェック表を利用して、確認をしています。利用者の仕草や癖で気がつくよう、自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として繊維質を取り入れたバランスの良い食べ物と十分な水分、適度な運動を取り入れた生活支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者それぞれの入浴したい時間に、好みの入浴剤を取り入れたり等して入浴が気持の負担にならないように配慮している。	管理表で、週2～3回の入浴ができているかを確認していますが、拒むことがあればタイミングをみながら、声掛けし、気分を変え、入浴ができるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や昼夜の心身の状態に応じ、適度に休息をとりながら生活リズムを整え、快適に過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファルし誰もがすぐ確認できるようにしている。服薬確認は厳重にチェックし誤薬が起こらない対策をとりながら作用の確認も観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食後の食器やお盆拭き、下準備等役割として取り入れている。個人の楽しみとして習字や編み物、遊びではゲームやカラオケ他を楽しむ支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季間では散歩の機会も制限されてしまうが、これから戸外に出る機会も増える事を考え、室内で定期的に歩行訓練を行っている。冬季でも受診や買物の希望があれば、職員が同行し安全な外出が支援出来ている。	冬季間以外では、ホーム裏の公園や農協までの買い物、スーパーまでも歩いていきます。カラオケや食事に行くこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社規定として金銭の所持は出来ませんが事務所預かり金としてのお小遣い金を説明させて頂き必要な時は使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や手紙のやり取りは家族意向で止められていない限り、利用者本位に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は明るく且つ居心地良く心がけている。安全を考え多くの飾りは置けないが、五感に不快を感じる物を置いたりそのような状態にしないように配慮している。又、利用者参加で壁飾りを作り リビングに飾って季節感を感じられるようにしている。	節句の飾りや、季節の花を飾り、明るい居間は気軽に集まりやすい場所になっています。廊下の奥にもソファとテーブルを置き、自由に寛げるスペースになっています。共有部分は適温であり、不快な音や光などは感じられません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、その時々会話や遊びに応じ座る席を移動している。廊下の奥には応接セットを置き家族や気の合った者同士が自由に交流できるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれの利用者が家で使っていた馴染みの品を持ち込み 安心感を持って暮らしている。	居室には、使い慣れた家具や仏壇、家族の写真など、思い出のものを持ち込み、自分らしく過ごせる部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には目印をつけて利用者がわかり易く混乱しないように工夫している。居室入り口には本人の解りやすい目印をつけ 覚えやすい工夫をしている		